

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Results from an observational trial: Digital epiluminescence microscopy follow-up of atypical nevi increases the sensitivity and the chance of success of conventional dermoscopy in detecting melanoma	
	論文の日本語タイトル	観察的試験の結果：異型母斑のデジタルダーモスコピーによる経過追跡はメラノーマを検出するうえでダーモスコピーの感度と成功率を向上させる	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称		
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（III）	
	Pubmed ID	16514414	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Invest Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	126	
	号	5	
	ページ	980-5	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2006 May	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Haenssle HA	Dept. of Derm, Goettingen, Germany
	その他著者 1	Krueger U	同上
	その他著者 2	Vente C	同上
	その他著者 3	Thomas KM	同上
	その他著者 4	Bertsch HP	同上
	その他著者 5	Zutt M	同上
	その他著者 6	Rosenberger A	Dept. of Genetic Epidemiol, Goettingen, Germany
	その他著者 7	Neumann C	Dept. of Derm, Goettingen, Germany
	その他著者 8	Emmert S	同上

一次研究の 8 項目	目的	異型母斑(AN)の長期経過観察におけるデジタルダーモスコピーの意義を検討する	
	研究デザイン	非ランダム化比較試験。	
	セッティング	大学病院外来	
	対象者	530 人の患者（第 1 群 353 人：50 個以上の母斑と 3 個以下の AN、第 2 群 171 人：過去に組織学的に確定された AN を 3 個以上を有する AMS 患者、第 3 群 6 人：メラノーマの家族歴のある FAMMM 症候群患者）にみられた 7001 個の AN を、定期的（3, 6, 12 カ月毎）に経過観察。平均観察期間 32.2 カ月。	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (2)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入（要因曝露）	メラノーマ発生リスクの高い患者の母斑をデジタルダーモスコピーで定期的に経過観察し、病変に変化（病変の非対称性拡大、形状・色調の変化、退縮像の出現、ダーモスコピー構造の変化のいずれかがみられたら切除して、組織学的に検討する。	
	エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分
	1	デジタルダーモスコピーがメラノーマの早期検出に役立つか	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
主な結果	1) 初診時に 237 個の病変が切除され、うち 37 病変がメラノーマであった。その 30 病巣はダーモスコピー所見でメラノーマを疑われたものである。 2) 経過観察中に 637 個の病変が生検され、うち 53 病変 (25 病巣は thin invasive、28 病巣は in situ) がメラノーマであった (メラノーマ検出の成功率：8.3%)。13 病巣のメラノーマは経過中に新生した病巣であった。18 病巣はデジタルダーモスコピーのみによって疑われて生検されたものであり、通常のダーモスコピーより感度が上昇した。		

	結論	ハイリスク患者の病変の経過観察にデジタルダーモスコピーを用いるとメラノーマの早期検出に役立つ。
	備考	
レビュワーコメント	レビュワー氏名	齋田俊明
	レビュワーコメント	エビデンスのレベル分類 (Ⅲ) メラノーマリスクの高い母斑多発患者におけるメラノーマの早期検出にデジタルダーモスコピーによる経過観察が役立つ。